

EKLY REPORT

ROTARYCLUBOF hakusanishikawa



がハナー方針「**一歩前進しよう(one step ahead)**」 クラブ基本方針「**この地球を優しさで満たそう・・・未来ある子ども達のために**」

白山石川ロータリークラブ

2020年2月20日 No.866

会長:武藤一彦 幹事:織部資子

クラブ会報委員長:永瀬喜子 副委員長:藤本和久 委員 五十嵐隆介・林 哲也・多田 茂

事務局/白山市西新町 159-2 松任産業会館 4階 TEL076-274-2907 FAX076-274-2908

Mail:info@hakusanishikawa-rc.jp HP://www.hakusanishikawa-rc.jp

◆会長挨拶 (武藤一彦会長)



大塚順一くんは、高校時代の同級生である。気が合ったという事だが、話していて楽しいし、何より彼の誠実さに惚れたと言うことかもしれない。神奈川県横須賀市にあるこの高校は、

首相も輩出した事のある進学校である。だが、あまり勉強を強要された記憶がない。やりたい人はやりなさいという高校である。中学まで秀才としてやって来た15歳にとって、これ程良い高校はないだろう。入学時は、上位だった成績も、それなりにやっているだけでは維持は無理である。あたかもジェット機の如く急降下という事になる。大塚順一くんの成績はあまり気にしたことは無かったが、彼の性格通りに着々と歩を進めているという印象だった。彼は彼である。とやかくいうことはない。こうして3年生を迎え、受験に臨んだ。彼は、横浜市大商学部は無事入学し、私は四つの大学(公立及び私立工学部を2つずつ)受験に失敗し、浪人というバツのない生活に甘んじる事になった。更に受験終了後、予備校の受験にもチャレンジしたが、落ちグセのついた生徒には、落ちる事は容易であった。目の前は真っ暗であったが、横浜の試験のない予備校にどうにか潜り込んだ。たまたま、その頃に外科手術を受ける機会があり、医師という職業に興味を持った。

予備校生活は、思っていた程悲惨ではなかった。皆バツがないということで一致している。そのうちにAくんという友人もできた。二人で昼休みに近くにある野毛のプールに泳ぎに行ったり、動物園を覗いたりして気分転換が出来た。授業で何よりもラッキーだったのは数学の楽しさを教えて貰えた高齢の教師に出会えたことである。苦手だった数学の時間が待ちどろしくなった。1年間はあるという間に過ぎ、Aくんは無事、東京工大という目標大学に合格した。私は、志望学部を工学部から医学部に変更し、鉛色の北陸の空と登城する大学との触れ込みに刺激され金沢大学を選んだ。家から通えるのではなく、親から離れて生活したいという気持ちが異常に強くなったからでもある。

夜行列車に乗りながら受験に赴いた。「また来ることはないだろう」という考えが頭を占めていた。初めての北陸の町は、入り組んだ街並みや言葉の優しさに良い印象を受けた。駅から迷いながら兼六園に着いた。まだ早朝である。兼六園のベンチでいつの間にか寝入っていたが、目が覚めた時に「頑張ろう」という気持ちが強くなっている自分に気付いた。数学の老先生のお陰だろう。受験という試験に初めて合格した。

大塚くんがどこへ就職したのか、誰と結婚したのか、お互いに連絡することもなくそれぞれの忙しい人生を歩いていたのだろう。時々行われる同窓会へもまったく出席する事もなく年月は過ぎた。数年前、大塚くんが、ある大手ビル会社のNo.5であるという話を聞いた。サラリーマンとしては相当な出世なのだろう。学生時代の印象としては、言葉も少なく、ゴマスリなんて到底出来ないであろう大塚くんがどう頑張って取締役専務執行役員にまで登り詰めたのか。昔の人間と違った人間になってしまったのだろうか。彼氏に会って見たい。この思いが強くなり、こちらから連絡した。

六本木ヒルズで会う事になった。すごいビルだ。お互いに寡黙であるが、会話が始まった。昔と変わらない。高校時代の大塚に変わらない。お互いに仕事のこと、家族のことなど、思い付くままに会話が弾んだ。話していて感じたのは、苦勞人としての経験が仕事に生かされているという事である。この会社に50年過ごしてきたという彼氏の役割は、会社の潤滑油として機能してきたのではないかと。多くの会社が難渋する大会社の人間関係をスムーズにし、この会社の仕事であるビルをまとめて大きなビルにするために多くの人間の心をまとめるという難しい役割を担ってきたのだろう。現在は、特別顧問として残留しているが会社にとっては、いつまでもいて欲しい逸材であろう。大塚くんが、東京の景色を変える張本人であるという思いに至った。当ロータリークラブにての卓話をお聴きしてその思いを更に強くした。大塚くんは高校時代と変わらない。だから今の仕事が出来るのである。人と人の関係を誠実という糸で結びつけ、住みやすい環境を作り出すのだ。現在もいくつかのプロジェクトが進行中と聞いた。

「ビルの中に、災害避難所も作れたらいいね」と本気で伝えた。彼は、それも頭に入れていこうというように頷いた。

◆お客様の紹介

- ・森ビル株式会社 特別顧問 大塚 順一様
- ・2019～2020 年度受入交換留学生 リヴァイ・ハウザーさん

◆表彰の伝達

- ・第12回 米山功労クラブ 感謝状



◆幹事報告 (織部資子 幹事)



- 2/17 ガバナー事務所 決議審議会への決議案提出に関するお願い文書が届く。【提出締切日】3月31日(火)
- 2/24 ロータリー米山記念奨学会 ハイライトよねやま239号が届く。友愛の広場でご覧ください。

◆プログラム 卓話

講師紹介

講師 森ビル株式会社 特別顧問 大塚 順一 氏
演題 『森ビルという会社』



◆出席報告 (新 陽一郎 委員長)



- 出席率 : 90.63%
- 出席者 : 25名 /34名
- 出席補填 : 4名
- 出席免除者 : 1名
- メーキャップ : 6名
- ・2/15 第1回クラブ国際奉仕委員長会議 藤本和久
- ・2/17 金沢香林坊RC 小路昌弘
- ・2/19 炉辺会合第3班 永瀬喜子、前嶋伸一郎、本島大昌、福永哲夫

◆ニコニコボックスの発表(竹田 佳一 委員長)

- 武藤 一彦 会長 大塚様、卓話ありがとうございました。森ビルという会社に夢を託したいと思います。
- 野澤 誠治 森ビル 大塚様、今日は卓話ありがとうございました。中川さん、お久しぶりにお顔を見れました。嬉しいです。
- 池元ことみ 森ビル(株)特別顧問 大塚順一様、卓話ありがとうございました。中川さん、元気なお顔を見れて嬉しいです。



本日合計 5,000円 今年度累計 425,396円

